

温暖化、食害などから ふるさとの緑守ろう

森の恵み 体感

苫小牧、安平でイベント

苫小牧市や安平町で6、7の両日、森の環境を守り、触れ合うイベントが相次いだ。エゾシカの食害から樹木を守る活動や、温暖化対策の植樹などが行われ、枯れ葉散る晩秋の林の中で人々は、恵みの森林を後世につなぐ大切さを体感した。



オンコの幹にネットを巻く参加者

北大苫小牧研究林で7日、「古里オンコの森」をエゾシカの食害から守る市民の集いが開かれた。苫小牧や札幌などから約80人が参加し、木の幹に食害防止ネットを巻き付ける作業に汗を流した。会場のオンコの森では、古里さんを紹介するプレートの除幕式の後、世の中を見守ってほしい



シンボルツリーを祭る神事も

北大苫小牧研究林で市民の集い

エゾシカから守ろう

オンコに防止ネット

参加者は約200本のオンコの幹にプラスチック製のネットを巻き、森を後世に残そうと取り組んだ。

約1・2秒の古里オンコの森は、26年前に札幌市の古里後楽さん(19

91年に死去)から寄贈された数千本のオンコ

は、古里さんを紹介するプレートの除幕式の後、

世の中を見守ってほしい

イコロの森で植樹イベント

アカエゾマツ苗木

110本森の中に

苫小牧市植苗の屋外庭園施設・イコロの森で6日、植樹イベントが催された。参加者はアカエゾマツの苗木110本を森の中に植え、緑の大切さをアピールした。植樹イベントは、NPとして企画した。



苗木を植える参加者

安平でこころの森フォーラム

住民参加で里山造り 森の癒やし効果体感

人の体や心を元気にする森の動きを体感する「こころの森フォーラム」が注目をされている。6日、安平町遠浅の大島山林で開かれた。苫小牧などから約50人が参加。枯れ葉が舞う静かな晩秋の山林を散策し、森の癒やし効果を感じた。

引き続き、山林に立つ樹齢100年のドロノキの巨木を、保育活動のシンボリックな存在とするための神事も行った。

その後、会場を近くの町内会集会場に移し、苫小牧の精神科医、瀧沢紫織さんが「身近な林と子供たちの成長」をテーマに講演。

子供の想像力を豊かにし、心や体をたくむ森林の力について話し、自然の中で遊べる環境の確保などの必要性を力説した。

残りのネット巻き作業は今後、研究林職員が行

り進むという。

本間行彦さんなど関係者

がイベントを企画した。

約1・2秒の古里オンコ

は、26年前に札幌市の古

里後楽さん(1991年に死去)

から寄贈された数千本の